

## 解題

戒田 栄

- 1 名称 来見村越智家文書
- 2 所蔵者 愛媛県立図書館（周桑郡丹原町立中学校寄贈）
- 3 旧蔵地 周桑郡丹原町来見

旧来見村は高縄山地に源を發する関屋川（中山川の支流）の扇状地の扇央部より扇端部にわたる地域で、扇央部には畑地が広く開け、扇端部には水田が多い。村落は典型的な扇状地集落を形成し、こんぴら道（松山街道）上の宿場として發達した。本村は松山藩に属し、慶安元年伊予国知行高郷村数帳によれば、村高 188 石 5 斗にして、幕末まで増減しない。嘉永 2 年の周布村村畝高御免附手鑑によれば、人口 310 人、家数 72 軒の小村である。明治 22 年施行の市制町村制により、旧来見村は湯谷口、志川、寺尾、関谷、石経の各村と合併して中川村となり、昭和 30 年に桜樹村をあわせ、さらに翌年丹原町に合併して現在にいたる。

### 4 文書の伝来

本文書は旧来見村庄屋越智家の家継文書であり、越智茂登太氏の遺族倫子氏が周桑郡丹原町立丹原西中学校へ寄贈し、さらに同校が当図書館へ昭和 49 年 12 月に寄贈したものである。本文書によれば、旧来見村庄屋、初代彦左衛門は寛文 4 年に一人扶持を給与され、代代うけつがれて彦右衛門にいたりさらに喜惣左衛門を経て、隆左衛門にいたる。隆左衛門は大庄屋役を勤めて寛政 9 年に没した。その後一人扶持は若年につき取り上げられたが、来見村後見志川村庄屋源左衛門等の願出により、享保元年再び一人扶持を給与された。幕末にいたり、市太郎が大庄屋格を仰せつけられ、伝馬所を兼務した。その子茂登太は明治 3 年に庄屋役を命ぜられたが、同 5 年に庄屋が廃止された。茂登太は明治 13 年より同 26 年まで来見郵便局長を勤め、同年中川村村長に当選し、爾来 48 年間その職にあつて郷土の發展に尽し、昭和 14 年に現職のまま 80 歳で没した。その間明治 44 年に県議員に当選し、昭和 3 年に県議長となる。本文書は彼に関するものが最も多い。

### 5 文書の内容

本文書は享保 9（1724）年より、昭和 13（1938）年にいたるまでのものであり、その内容は次頁の項目に分類して表示する。

項目	時代		近代	
	近世	近世	近代	近代
	冊子	一枚物	冊子	一枚物
総記	1			
藩政（県政）			21	15
村（町）政	10	80	7	20
一般	4	21	5	20
財政	6	58	2	
救恤		1		
戸口		1		
土地	34	1	2	43
貢租（租税）	3	7	26	3
産業	2	18	83	96
農林・水産	2	13	44	16
土木・治水・用水			7	4
鉱業			3	
商工業		3	2	5
金融		1	26	69
交通・通信		1	1	2
教育・学問・芸術	10	11	50	23
宗教・社寺		4	3	12
私文書	1	66	30	69
文書		63	4	69
記録	1	3	26	
計	61	188	222	281

以上近世の公文書は60冊122通、近代のものは192冊212通であり、近世の私文書は1冊66通、近代のものは30冊69通であり、総計は283冊469通となる。